

日本在来馬の活用を目指して!! ～安全に活用できる馬にする為に!!～



公益社団法人
全国乗馬倶楽部振興協会
普及部長 藤田 知己

日本における乗馬普及活動上の要点と課題

・乗馬普及の要点となる三要素

人・馬・施設

・乗馬普及上の課題

◇人 ⇒ 指導者の資質の向上!!

技術の向上のみならず人間教育が重要。

◇馬 ⇒ 国産乗用馬の生産・育成・流通!!

◇施設 ⇒ 安全に対する配慮!!

日本の乗馬クラブ数と乗馬人口

- ・日本における乗馬の商業施設

約900施設

- ・(公社)全国乗馬倶楽部振興協会加盟

275施設

- ・乗馬人口 ⇒ 参加人口 約110万人

活動人口 約 7万人

競技人口 約 6,500人

日本で飼養されている馬の内訳

<国内に繋養されている馬の頭数・概数>

- ・軽種馬:42,000頭(ほとんどが競馬用)
- ・重種馬:18,000頭(食肉用が主な目的)
- ・乗用馬:16,000頭(スポーツ・レジャー用)
- ・在来馬: 1,800頭 (種の保存・活用が課題)

北海道和種・木曾馬・野間馬・対州馬

御崎馬・トカラ馬・宮古馬・与那国馬

日本には*79,000頭の馬が飼養されているが年々減少傾向が続いている。

日本在来馬の現状について

<保存馬種と頭数・1900年代初頭までは50種が存在?>

・北海道和種(ドサンコ)	1300頭
・木曾馬	80頭
・野間馬	70頭
・御崎馬	120頭
・トカラ馬	100頭
・与那国馬	100頭
・対州馬	31頭
・宮古馬	35頭

総計: * 1800頭

日本在来馬

木曾馬
(長野県・岐阜県)



野間馬(愛媛)



北海道和種(北海道)



トカラ馬(鹿児島)
※喜界島→トカラ列島



対州馬(長崎)



御崎馬(宮崎)



与那国馬(沖縄)



宮古馬(沖縄)



活用の可能性と問題点

- * 活用のステージは多様に存在。
幼児から小学校低学年児のフレンドホース。
地域イベント用ホース。トレイルホース。
高齢者の健康乗馬。乗馬クラブのレッスン馬。
- * 活用するにも問題山積。
人間の傍で静かにしてられない。
部班運動が出来ない等々。
要するに基礎的躰が出来ていない!!

活用を推進するためには?!

躰なくして活用なし

活用なくして保存なし!!

人間との基本的なコミュニケーションが
取れる馬として供給することが出来れば
活用は推進される!!

馬の馴致と調教について

- ・馴致とは：人と共に作業をする際に必要となる
マナーや基本的動作等を教えること。
この出来、不出来が馬の将来を左右する！
- ・調教とは：馴致段階が終了した馬に活用目的に
応じて必要な技術と体力を習得させる為
に実施するトレーニング。
教える側にある程度の経験と正しい理論が必要！

馬とのコミュニケーション作りに関する基礎知識

- 馬に接する時、まず心がけてもらいたいこと
→『良きリーダー』として接することが出来るか否か？
- 馬の本能的な基本行動を知る
→群棲動物としてリーダーのもと安息な生活を送る
- 良きリーダーの資質について考える
→馬群を“正しい方向”に“正しいスピード”で導ける。
- 良きリーダーになれない人間とはどんな人？

・馬に対して感情を露にする人・馬の表情を理解しない人・短気な人・力づくで馬に接しようとする人
馬の行動に対して即座に反応できない人etc.....。

馬とのコミュニケーション作り

誕生直後から始めなければならない躰

- 馬は大変臆病な動物
 - ➡ 怖がらせない
- 馬は耳が良く聞こえる
 - ➡ 静かに接する
- 馬は遠くのものには良く見えるが
近くのものを見るのが苦手
 - ➡ 納得するまで見せる
- 馬の視野は350度
 - ➡ 死角となる部分からは近づかない。
- 全身をソフトタッチ
- 早い時期での引き馬

馬体に触れてみましょう！

第一段階

- 手を優しく馬の鼻の近くかざしてみましょう！
→馬は人の匂いを確かめて安全を確認をする

||
人を受け入れる

第二段階

- ボディータッチ
タッチの手順は・・・
頭部→頸部→胴部→後躯→下肢部

ポイント

- ・5つの部位を順序よくタッチ
 - ・いずれかの部位で馬が違和感を示したら何が原因なのかを観察
- ※先を急がないこと！！

馬と共に歩くことこそが信頼を得る第一歩

馬と一緒に歩いてみましょう！
～引き馬によるコミュニケーション作り～



1. 無口頭絡を装着
2. 馬を静に立たせる
3. 歩くときの人間の位置は左側で馬の頭付近
4. 人間は一定のペースで歩くことを心がける
5. 馬を回転させるときは外側、すなわち、右方向に

引き馬時に起こりうる問題行動と対処例

馬が人間を無視して歩く: 引きずられる

➡ 絶対に勝手に先行させない

馬が歩こうとしない: 反抗心? or 怖い?

➡ 原因の究明。そして、後方よりサポート

馬が人間に悪戯を仕掛け、集中しない: 甘え

➡ 作業中の甘えは許さない

急にうしろにさがろうとする: 苦痛、驚き

➡ 原因の究明。そして、後方よりサポート

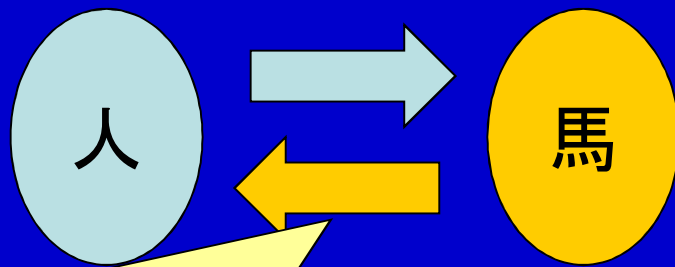
急に立ち上がる: 苦痛、驚き、反抗

➡ 原因の究明。引き綱を短く、馬と正対しない

コミュニケーション手段について

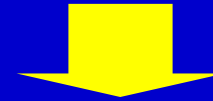
“プレッシャー & リリース”に対する認識の重要性

馬とのコミュニケーションを図る場面では…



この過程の良し悪しを馬が学習することで乗用馬としてのマナーや運動能力が向上

リリース: プレッシャーを常に追隨する行為



1つの指示としてプレッシャーを与え、馬が満足できる反応を示せば、必ず解放して褒めることが絶対条件

プレッシャー & リリースの繰り返しこそが馬とのコミュニケーション作りの基本中の基本

在来馬を活用するには乗せることだけではなく
見せる、ふれる、体験させることが大切!!









まとめ

日本の乗馬界の現状と日本在来馬の活用推進に関するあれこれを私の経験をもとにお話させて頂きましたが、韓国の皆様のお役にどれ程立てたのかは甚だ疑問です。

最後になりますが、私が本日申し上げたいことは韓国であろうが日本であろうが、馬は活用しなければ、馬文化も生まれることはなく、次世代に受け渡すことすら出来ないということです。

このような事から濟州馬や日本在来馬を次世代に価値のあるものとして受け渡す事こそが、現在両国の在来馬に関する全ての人間に課された使命であると思います。

この使命を負った人々は今何をしなければならないか？

私は人作りに尽きると思います。

正しい知識と技術を伝えることが出来る人材を養成していただき、濟州馬をはじめ韓国にいる馬達の魅力を多くの人々に伝えられる人材によって、より多くの国民の皆様が馬との楽しい時間を過ごしていただけることを願っております。

本日はお付き合い頂き誠にありがとうございました！！